

## ASEAN グローバルプログラム に参加して

箕浦 悠人  
Yuto MINOURA  
電子情報学科 2年

### 1. はじめに

2017年8月29日から9月7日にかけてベトナムとシンガポールにおいて、企業訪問、大学見学、講演会などを含む ASEAN グローバルプログラムに参加した。私がこのプログラムに参加した主な目的は、海外に行き、異なる価値観に触れて自分の視野を広げることであった。

表1 プログラムの日程

8月29日(火)	ベトナム入国
8月30日(水)	企業訪問
8月31日(木)	PBL(調査)
9月1日(金)	PBL(調査&発表)
9月2日(土)	観光
9月3日(日)	ベトナム出国 シンガポール入国 観光
9月4日(月)	南洋理工大学見学
9月5日(火)	加藤さん講演会 ビジネスパーソン交流会
9月6日(水)	自由行動 シンガポール出国
9月7日(木)	帰国

### 2. 研修内容

#### 2.1 企業見学

2日目には、ベトナムにある企業3社を訪問した。まず、散水用品や蛇口一体型浄水器を製作している日本企業である TAKAGI を訪問した。工場内を見学していると、事前の学習で習ったとおり女性の従業員が男性より多いことに気づいた。また、現地の従業員が自ら仕事を効率的に行うために改善案を出す、自分で材料を持ってきて台車を作るなどしているという話を聞き日本との違いに驚かされた。次にベトナムの IT 企業である Rikkei Soft Vietnam と NTQ Vietnam を訪問した。この2社では、実際に働いている方と交流をした。多くの方が日本と仕

事をしている関係で日本語を話されていた。

#### 2.2 Project Based Learning (PBL)

PBL とは、組織で仕事をする場合に近い仮想ワークを体験する手法で、今回はベトナム人の若年層の美意識を調査し、ユニクロの商品を売ることを目的として日本人5人に対してハノイ工業大学の学生2名が加わり、チームを作って共同作業を2日間にかけて行った。ベトナムの学生は、英語を流暢に話していて、話し合いにも積極的に参加していて日本と違い全員が積極的に前向きに学習をしているのだと感じた。聞き込み調査を行うとき、キャンパス内の学生が英語を流暢に話していたので、英語で通じると思っていたが、英語で話しかけてもベトナム語で返されたりして困惑した。2日目の午後にハノイ工業大学で調査結果を英語で発表したあと、ホテルに戻り、現地で働いておられる龍谷 OB の日本人の方の前で日本語に直したものを発表した。厳しい意見も返ってきたが、とても貴重な意見をいただくことができた。この活動で、限られた時間で課題をこなすことの大変さや、異なる国の人と話す難しさなど、とても多くの貴重なことを学べた。

#### 2.3 南洋理工大学

シンガポールに移動して2日目に南洋理工大学 (NTU) を見学した。NTU はシンガポールの大学として最上位に位置づけられており、QS 世界大学ランキングにおいて総合11位であり、世界的にみても、上位に位置する大学である。また、創立50年以内のなかでは世界1位にランクされている。キャンパスの広さも東京ディズニーランドの2倍の広さがある。まず大学に着いてから昼食を各自大学内で取った。大学内は、日本の大学と異なり、床屋など様々な店舗があった。そのなかには、マクドナルド、ピザハットなど日本でも有名な店舗もあった。次に、実際に行われている熱伝導の授業に参加させていただいた。授業の雰囲気は日本と異なり、全員が真面目で、私語や物音もなかった。全員が目的を

持って学習に取り組んでいるのだと感じた。授業の後には、2つの班に分かれてラボ見学をした。Innovation Lab, Robotics Research Centre, Air Traffic Management Institute の3つを順に見学した。1つ目は、車、船などの乗り物、2つ目は、医療向けのロボットの研究、3つ目は、飛行機の管制システムの研究を行っていた。特に、3つ目に興味を惹かれた。まず、管制室のシミュレーターを見せていただいた。360°に映しだされており、雨、雪、夜などの様々な条件を再現することができ、飛行機の視点での離陸、着陸もみることができた。次に管制システムの研究を説明していただいた。飛行機の管制では、飛行中の飛行機もモニタリングしている。しかし、それは平面で見にくい。モニタリングしている人間のストレスを減らし、人為的ミスをなくすために、3次元のモニタを開発していた。最後に学生交流会に参加した。NTUの参加したRoboMastersというロボットの大会や、作製したソーラーグライダーの様子を見せてもらった。ロボットは、実物も見せてもらい、何人か操作もした。しかし、時間が足りず、交流を十分にすることができなかつたのが残念だった。

#### 2.4 講演会とビジネスパーソンとの交流会

今回のプログラムでは、エンジェル事業家の加藤順彦さん講演会と4人のビジネスパーソンの方々と交流会があった。まず、シンガポールに着いた1日目も一緒に来てくださった築野勝彦さんの講演を聞いた。築野さんは多くの会社を起業しておられ、そのことに驚かされた。またその後の話もとても興

味深く、また築野さんの考え方などを聞いて、今まで周りにいた人たちと異なるため新鮮に感じた。また、他の3人のビジネスパーソンの方の話も興味深く、様々な価値観、考え方に触れることができた。最後に加藤順彦さんに講演をしていただいた。加藤さんの著書「若者よ、アジアのウミガメとなれ」を基に講演は行われた。講演を聴いて加藤さんは今まで私の周りにいた人たちと全く違うと感じた。講演の内容はどれも大変興味深く、老いとは、保守的になることという話が特に心に残った。人間老いるとやらない、できない理由を先に考えるそうで、できない理由から考える人ほどやってないそうだ。自分もそうであるため、自分は老いているのかとショックを受け、これから自分を変えていかなければと強く感じた。

#### 3. おわりに

今回このプログラムに参加して、現地での活動は大変なうえ、初めての海外で困惑することも多く、苦労や失敗も多くあったが、この普段の生活ではできない貴重な経験がたくさんできた。海外の大学生と接することでいかに自分がいい加減だったか痛感した。また日本以外の国の様子を見たことや、講演会などで様々な人の話を聞き、今まで自分が会ったことのない価値観の人を知ることができた。私の参加した目的である、自分の視野を広げるというのはできたように感じる。今回のプログラムで学んだことや、反省すべきこと、それら全てを生かして社会に貢献できる人材になれるよう頑張っていきたい。